奥日光を体験する

美しい湖や滝、穏やかな湿地、硫黄の薫る温泉などの奥日光(の自然)は、火山を中心とする周囲の自然活動が、数千年をかけて形づくったものです。この地域では現在、素晴らしい景観や野生動物との出会いを経験でき、絶え間なく変化するダイナミックな自然の営みを体験できます。

奥日光の聖地と、国際的な一面

奥日光の山々は、奈良時代の後期(710－794)から、聖地として崇められてきており、数多くの修行僧が修験の場として奧日光を訪れました。男体山はそのような宗教的な意味を持ち、今日でも奧日光のシンボルです。

日光の社寺は世界遺産に指定されています。それらの社寺もまた、(日光の)神聖な自然と深い関わりを持っています。

日光を開山し、二荒山神社と輪王寺を創建した僧侶の勝道上人(735年-817年)は、男体山の登頂に成功した際、山の上から中禅寺湖を発見たと言われています。それ以来これらの場所は崇敬を集め続け、現在も山や湖で儀式が続いています(訳注：男体山登拝祭や船禅頂)。

また19～20世紀頃、奧日光の美しい景観と冷涼な気候が、日本在住の外国人や外交官を魅了。彼らは別荘を建築し、日本でも最初の多文化コミュニテイのひとつが作られました。現在でも中禅寺湖畔の旧英・伊大使館別荘が一般公開されております。

この文化と自然の組み合わせは、日本人が古くから抱いてきた自然への尊敬を象徴しています。

様々な動植物を観察する

まず、春から夏にかけては、花々の咲き誇る素晴らしい季節です。

湿原の散策路を進めば、戦場ヶ原ではワタスゲやホザキシモツケ、小田代原ではノアザミなどの花々が咲く様子を眺めることができるでしょう。幼虫時にホザキシモツケを食草とするフタスジチョウやヒメシジミ等の(チョウ)も観察できます。この時期は野鳥観察の季節でもあります。湿原内ではノビタキが、ズミ林ではアオジが見かけられやすいです。

華厳滝や竜頭滝まで足を運べば、涼しげに流れる滝の水とツツジの彩りを楽しめます。夏に近づくにつれてさらに青々と深みを増し、木々の緑も見事になります。

秋になれば、奥日光全体が一変します。鮮やかな色の葉が絨毯のように広がり、奥日光中を赤や金色に染め上げるのです。

カエデのような木々だけではなく、この地域には様々な木々が生育しています。湿原ではホザキシモツケをはじめとする植物が色づき、草紅葉のモザイク模様(beautiful tapestries of color)を形作ります。

厳しく白い世界の中にあるぬくもり

冬の奥日光には静寂が訪れます。山々や草原に粉雪がそっと降り積もり、湖は凍結。空気は透き通り、静寂に包まれます。スノーシューハイキングやスキーといった冬ならではのアクティビティもオススメです。

伝統的な温泉(Hot Spring)も、寒い季節には欠かせません。温泉が人気の日本の中でも、奥日光湯元温泉は長い歴史を持つ由緒ある温泉地です。この地域にはいくつもの旅館があり、戦場ヶ原などの各所にアクセスがしやすので、滞在の拠点としてもオススメです。

水の流れを辿る、奥日光の散歩道

奥日光の湖、川、小川などを味わいたいなら、ぜひ湯の湖畔から始まる遊歩道を進んでみましょう。

温かい湧水に恵まれた湯ノ湖から旅が始まります。流れた水は湯滝を通じて流れ落ち、湯川に注ぎます。湯川沿いの遊歩道を進めば、穏やかな流れ、透明な水に魅了されることでしょう。水の流れに沿って戦場ヶ原の自然研究路を抜け、竜頭ノ滝の脇を通れば、その先は中禅寺湖。雨水が森林の土壌を通って濾過・浄化され、川に注ぎこみ、やがて中禅寺湖に流れ着くのです。水は中禅寺湖に溜まったあと、華厳の滝を通じて最終的には下流の町や村へと運ばれて行きます。